

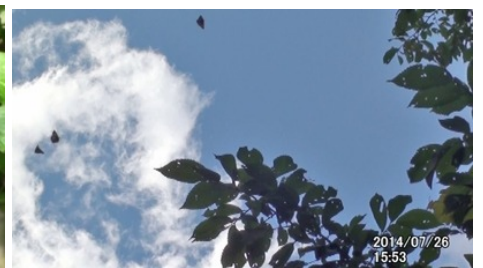
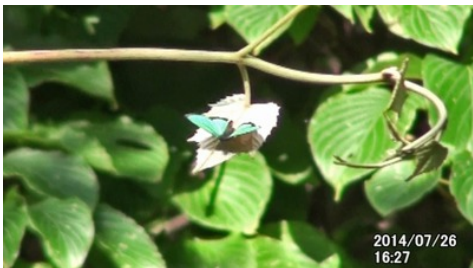
エゾミドリシジミとの初の出会いは家族旅行で訪れた日光戦場ヶ原の小田代。フタスジチョウが飛ぶ様子を眺めたりして散策遊歩道を進み、時刻が本種の活動ピークである 15 時を過ぎたころだったと思うが、遊歩道から少し外れた林縁で乱舞状態のゼフィルスの舞が展開しており、足元に注意しながら草原へと踏み込んでネットインしてみても初めてエゾミドリシジミだとわかる。新鮮度は低く、手元に残る記念の採集個体は展翅意欲が出ないほどに前翅に破損がみられ、翅表の鱗粉もかなりはげ落ちている。



Aug. 3, 1975
日光戦場ヶ原小田代
エゾミドリシジミ♂
leg. M.Shimazaki

July 26, 2014 開田高原でエゾミドリの乱舞を楽しむ

千葉市、四条畷市の親類と信州ドライブ旅行をした後半、千葉の親類を松本市まで送ってからのチョウタイム。梅雨時の豪雨が南木曾地区を襲った土石流被害が懸念されたが国道 19 号の走行に影響はなく、スジボソヤマキチョウがいるかもしれない開田高原へと木曾福島で分岐。通行禁止だが途中まではいけるだろうと月夜沢林道を進む。太陽光が届きにくくなる 16 時前、オカトラノオで蜜を吸うウラギンヒョウモン、そのすぐ近くを飛ぶオオミスジが目に入る。さらに奥へと進み、両側にモミジやコナラなどの木々がおおくなるあたりでゼフィルスが舞う。時間帯からしてエゾミドリシジミだろう。ときには 3 頭が縦列となって翅表の緑をキラリと輝かせながらの追飛翔や、2 頭での卍飛翔が何度も展開する。距離のある林奥の陽光が当たるノブドウのよう



な葉上で開翅姿勢をとる個体を望遠モードでかろうじてとらえる。エメラルドグリーン of 輝きが眩しいほどに美しいが、チョウ自体の新鮮度は低い。路面にはヒラヒラと飛ぶミスジチョウがいるし、目の高さで飛び交うルリタテハもいる。目前にきたルリタテハをネットインするとかなりの損傷個体。すぐにリリースすると、遠くに逃げることなく再び周辺を旋回するように飛ぶ。結局、目的としたスジボソヤマキチョウには出会えなかったが、予期せぬエゾミドリシジミの活発な舞踏会を堪能できて良しとする。

